

## 「2015年シドニー大学スプリングスクールプログラム 参加報告書」

京都大学経営管理教育部 修士2年 (氏名) 松井宏文

## ① 学習成果

## [授業内容]

平日は大体、午前9時30分～12時30分、午後14時～16時に英語の授業があった。基本的に与えられたテキストに沿って、英語で意見を述べたり、チームで議論したりする形式であった。時にはyoutubeの動画を使って、オーストラリアの文化・歴史について学ぶこともあった。

また、外部講師による授業も数回あった。オーストラリアで起業した日本人の方の講義や、リーダーシップ論、コミュニケーション理論の講義を受けることができた。

課外授業において、農場研修では農場経営を歴史的に学び、ジャパンファンデーション訪問では日豪交流の実際を体験することができた。

## [感想]

## 学業面

間違いなく、英語での発信能力、聴講力が向上した。最初は、やはり相手が何を言っているのか時々わからないことが多かったが、次第に授業・交流において、スムーズにコミュニケーションをとれていることに気付いた。特に、帰りの飛行機で英語の映画を、ほとんど字幕を頼らずに聞き取れるようになっていたとき、自分の進歩に感動した。

## 私生活面

交通インフラ、文化施設、自然環境が非常に優れており、充実した生活を満喫できた。人々が都市・自然環境意識を強く持っていることが間接的に感じられた。ただ、非常に物価が高く、海外訪問者にとっては経済的には滞在しにくい場所であるという感じは否めなかった。

## 国際理解

オーストラリアは昔、白豪主義の歴史があることから、アジア人蔑視的な対応をもしかしたら受けるかもしれないと若干覚悟していたが、全くそのようなことはなく、人種なぞ関係ない非常にフレンドリーな対応であることに気付いた。オーストラリアが移民の国であることを強く感じることができた。また、オーストラリアは日本語学習者数が世界4位ということもあり、非常に日本に対する理解・関心が強く、街中で日本語で話しかけられることが度々あったことに驚いた。

## ② 海外での経験、

上記以外で特筆すべきなのは、オーストラリア人の特徴をよく表す、laid-back という気質であろう。物事に対して常にリラックスして取り組んでいる姿は、日本ではあまりみられるものではないものの、個人的には非常に好印象であった。人生を楽しむ姿勢という観点でとても参考になる姿勢だと思った。

## ③ プログラム内容

SENDプログラムによる約2週間の海外研修であった。単位取得等はなく、修了証が与えられる形式であった。学問的な面よりも、国際理解・交流に重点を置いたプログラムであったと理解している。

## ④ 進路への影響について

今回の留学でのあらゆる経験を通して、①英語運用能力の向上②オーストラリア社会の理解の2つを達成した。4月から総合商社で働くうえで、この経験は間違いなくプラスに働くと確信している。